

## 令和 4(2022)年度 自主講座

NO.	講座・講師名	講座目的	講座内容	講座日程等
1	数式なしで楽しく理解するデータサイエンス  特任教授 西村 勇	高等教育機関の数理・データサイエンス・AI教育プログラムも始まり、企業でもDXを中心とするリスクリングが始まろうとしている。 数字が苦手な人へデータサイエンスを学ぶきっかけをつくる。	近年注目されているデータサイエンスの入門編として開催した。データサイエンスのトピックスから、近年実用された事例を紹介した。その後、歴史的なデータサイエンス実例として「天気予報」を題材にどんな準備が必要か理解を深め、データサイエンスで行える解析を「確立」、「順番付」、「分類」、「理由」の4つに絞り、解析事例について検討した。 データサイエンスの技術者だけでなく、データを取り巻く社会の人々がその活動について議論に参加することが必要だということ共有した。 最後にデータ活用の際に気を付けていきたいこととして、「個人情報取り扱い」、「調査におけるサンプリング手法」、「はずれ値」についての説明を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月29日(金)</li> <li>・ 18:30~20:30</li> <li>・ 全1回</li> <li>・ 23人受講</li> </ul>
2	インターネットと辞書で学ぶ英単語の使い分け  教授 福田 稔	英語辞典は有用な学習ツールであると言われていています。本講座では、さらにインターネットも活用することで、日英語の違いに気づきながら、深く学べることを言語学や認知科学の観点から説明します。	英語辞書は極めて有用な学習ツールです。インターネットも活用することで、日英語の違いについて、深く学べることを言語学や認知科学の観点から説明しました。 前半では、「みる」を意味する see / look / watch を取り上げて、簡単なクイズを解き、英和辞典やインターネット辞書を使って、使い分けを確認しました。また、データ集コーパスや、歴史的な意味変遷にも触れました。後半では、前置詞 on / over / above を取り上げて、インターネット辞書で意味の違いを確認し、反意語を調べる課題に取り組んで頂きました。 多少でも手間隙をかける方が深く学べます。継続可能で、自分に合った学習法を見つけることも大切だと結論付けました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月23日(火)</li> <li>・ 13:30~16:00</li> <li>・ 全1回</li> <li>・ 7人受講</li> </ul>

<p>3</p>	<p>英語を使いたい人のための機械翻訳活用法</p> <p>教授</p> <p>竹野 茂</p>	<p>英語学習者、英語を職業上使う必要のある人がより早く、より良い英語表現を使えたり、より早く英語で書かれた情報を読み取るための機械翻訳術を伝授する。</p>	<p>(8/22) 最初に受講者一人ひとりに、受講の動機、機械翻訳についてどのように考えているのかを尋ねてから始めた。機械翻訳に用いる3つのツール (Google Translate, DeepL、みらい翻訳) を示した上で、それぞれの翻訳がどのような訳文 (日本語→英語) を輩出するかを示した。その後、機械翻訳の仕組みについて、簡潔な説明を行った。「機械翻訳の出現により外国語 (特に英語) 学習は必要なくなるのか」という問題について考えた。その上で、機械翻訳をツールとして上手に便利に使うためには、外国語の知識が必要であると主張した。説明後に、それぞれの翻訳がどのようになるのかを、日本語の文学作品の冒頭部分を機械翻訳にかけるとどのようになるのかを参加者に実演してもらった。</p> <p>(8/29) 「自動翻訳の訳出精度を上げるコツ」を実際に受講生にやってもらいながら体得してもらう形式をとった。</p> <p>また、「イチローの野球殿堂入りの際のスピーチ」を取り上げ、動画から Google Translate の音声認識機能を利用して文字化しそれを自動翻訳する実演を交えた。</p> <p>上記のコツでは、日本語から英語への翻訳、また、英語のことわざや日常会話に使える表現を用いて日本語に機械翻訳することで、英語学習の補助的な考え方を示した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月22日(月)</li> <li>・ 8月29日(月)</li> <li>・ 18:00～20:00</li> <li>・ 全2回</li> <li>・ のべ22人受講</li> </ul>
----------	--	---	--	---

4	<p>中高生（と大人）を対象とした「使える英語」講座 第1回</p> <p>教授 松本 祐子</p>	<p>未来の大学生や地域の方々に英語学習の楽しさを知ってもらい、学びの拠点として宮崎公立大学を認識してもらうこと</p>	<p>中高生を対象に「使える英語」に関する講座を実施。 講座の前半は、「使える英語とは？」「単語や文法のコアとは？」ということについて、認知科学の観点から事例を交えて解説した。更に、前置詞「at, on, in」に関するコアの意味を考え、練習問題に取り組み、分からない箇所はグループメンバーと協同で取り組んだ。 講座の後半は、実践活動を2つ行った。まず「自分の誕生会を企画する」という活動で、既習の「at, on, in」を使う質問を用意し、パートナーと英語でやりとりをした。次に英字新聞を用い、既習の「at, on, in」が実際どのような使われ方をしているのか、ワークシートに書き出し、学習したコアイメージに照らし合わせて確認した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月24日(土)</li> <li>・ 10:00~12:00</li> <li>・ 全1回</li> <li>・ 22人受講</li> </ul>
5	<p>音声表現講座 「朗読はバクハツだ！」</p> <p>特任教授 西村 勇</p>	<p>NHK アナウンサー杉尾氏による朗読による音声表現講座</p>	<p>元 NHK アナウンサー杉尾宗紀氏による音声表現講座。 朗読の題材として「チェコ SF 短編小説集」（平凡社）の中から、ヤロスラフ・ハシュク/Jaroslav Hašek (1883-1923)作「オーストリアの税関」を用いた。朗読爆発のための四箇条として下記に留意しながら朗読をおこなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自分の本来の豊かな声で 大声 X 無理しない小声から</li> <li>②日本語の9割9分は母音 活舌は母音が解決する</li> <li>③朗読はどこで切っても自由「どこで切るか」で個性が爆発</li> <li>④作品を味わいながら読む ティスティングが読みの極意</li> </ol> <p>以上を実践することで、プレゼン力だけでなく、人前での人間力アップを目指した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11月10日(木)</li> <li>11月17日(木)</li> <li>11月24日(木)</li> <li>・ 18:30~20:00</li> <li>・ 全3回</li> <li>・ のべ13人受講</li> </ul>

6	<p>教育機関・地域と連携した防災教育（第12回ストリートウォッチング）</p> <p>教授 辻 利則 （現 学長）</p>	<p>将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みについて、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的とする。</p>	<p>本活動は、将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みを、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的としている。</p> <p>活動は、事前授業において、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて学び、その後、実際に地域を調査する。</p> <p>地域調査は、危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために、地域住民の方と一緒に歩き、過去の災害など様々な話を聞く。本学の学生は地域の方と一緒に同行し、サポート役として参加する。</p> <p>本年度はコロナ対策として5クラスを3クラスと2クラスに分けて実施した。開発したWebアプリを使用し、タブレットを使って調査箇所を入力してもらった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前授業 11月16日(水)</li> <li>・地域調査 12月6日(火) 12月8日(木)</li> <li>・8:00～13:00</li> <li>・全3回</li> <li>・小学校受講者 160人 地域の受講者 30人 本学学生 20人</li> </ul>
7	<p>「子どもの貧困」を考える</p> <p>准教授 寺町 晋哉</p>	<p>近年注目を浴びる「子どもの貧困」について、特に学校生活へどのような影響を及ぼすのかを検討する。</p>	<p>「子どもの貧困」について、教育社会学の視点から研究している講師二名を招き、講座を行った。梶原豪人は「子どもの貧困と学校生活：地方自治体による子どもの貧困実態調査の結果から」、栗原和樹氏は「教師は貧困をどのように捉えているのか」というテーマで話題提供を行って頂いた。</p> <p>各テーマにつき50分の話題提供の後、フロアからの質問・意見に講師2名が応答する意見交換を1時間ほど行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月3日(土)</li> <li>・14:00～17:00</li> <li>・全1回</li> <li>・20人受講</li> </ul>

8	<p>ストレスと上手に付き合う心理学 ～困難を乗り越えるために～</p> <p>教授 川瀬 隆千</p>	<p>「ストレス」とは何でしょうか。よく使う言葉ですが、実はよくわかりません。私たちの身の回りのストレスについて心理学の観点から解説し、ストレスへの対処、さまざまな困難を乗り越える方法を考えます。</p>	<p>「第1部 ストレスとは何か」において、セリエのストレス学説、ホームズとレイの精神医学的ストレス理論、ラザルスの心理学的ストレス理論について説明した。</p> <p>「第2部 ストレスと上手に付き合う」では、ストレスプロセスとコーピング、ストレスプロセスを媒介するソーシャルサポートや楽観的説明スタイルについて説明し、ストレスと上手に付き合う方法を考えた。また、ストレス関連成長とそのプロセスについても触れ、ストレスのポジティブな面についても説明した。理論的な話が中心だが、ストレスの少ない県は？ サルも温泉でストレス解消？ 笑顔がストレスを解消する？などの話も取り入れて構成した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月21日(火)</li> <li>・18:30～20:30</li> <li>・全1回</li> <li>・15人受講</li> </ul>
9	<p>宮崎と文学 —遠藤周作「無鹿」を読む—</p> <p>准教授 楠田 剛士</p>	<p>宮崎ゆかりの近現代文学の作品やその特徴について市民向けに解説し、文学への興味関心を高める。</p>	<p>宮崎を舞台にした小説である遠藤周作「無鹿」を取り上げ、その見どころ解説する講座を行った。</p> <p>まず「無鹿」のあらすじと、作者遠藤の略歴を紹介した。そのなかで「無鹿」の初出と初刊に本文異同があること、代表作である「海と毒薬」「沈黙」「深い河」と同じように「無鹿」も現地取材に基づく創作であること、「無鹿」と同時期に書かれた「王の挽歌」でも大友宗麟が取り上げられているが、最近の研究や発見された未発表原稿などから、より以前から無鹿という場所に遠藤が関心を示していたことなどを説明した。次に小説の舞台となった宮崎市の料理店「杉の子」について、実際の写真を使いながら説明した。遠藤を案内した店主の回想やエッセイなどから、遠藤が食した料理が今でも食べられることを話した。また、延岡市の「無鹿」についても、実際の写真や動画を用いながら、小説の表現との対応関係を示した。遠藤が見たものと変わらない風景を今でも見ることができること、遠藤が来県し小説を書いたことで無鹿は大友宗麟・西郷隆盛・遠藤周作が結びつく新しい風景が生まれたことなどを話した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月5日(日)</li> <li>・10:00～12:00</li> <li>・全1回</li> <li>・11人受講</li> </ul>

10	<p>地域伝承と地域創生 —地域伝説を手掛かりに—  教授 永松 敦</p>	<p>大宮地区の小中生に、地域の伝説を紙芝居にして伝える活動を行っている。今回は神武様伝説を新規に作成し、神武様の祭礼と合わせて公開し、地域の伝承に役立てることが目的。</p>	<p>大宮地区に伝わる伝承 下北方町の景清伝説・池内町の宮崎城にまつわる歴史物語を、紙芝居を通して、次世代に伝承する試みを実践するもの。今回は上記2種の紙芝居に、大宮中学校美術部が制作した「神武様ものがたり」を公開した。 後半は、地域住民2名（野中氏・権氏）と宮崎大学地域資源創成学研究所講師の鈴木氏、画家の水元氏を交えて、地域伝承を次世代にどのように伝えることが望ましいかについて討論を行った。 会場は大宮地域事務所の関係者をはじめ、地域住民、まちづくりに取り組み方々で賑わった。会場からも意見が多く出され、活発な質疑応答が行われた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月18日(土)</li> <li>・ 13:30～15:30</li> <li>・ 全1回</li> <li>・ 47人受講</li> </ul>
----	--	--	--	---